

令和2年度 第2回高知県スポーツ振興県民会議

競技力向上部会 議事要旨

日時:令和2年10月26日(月) 13:30~15:30

会場:高知県立人権啓発センター 6Fホール

出席:部会員10名が出席(別紙のとおり)

議事:(1)令和2年度スポーツ施策の進捗状況について

(2)スポーツ振興の強化ポイントについて

(3)その他

1 開会

2 議事

(1)令和2年度スポーツ施策の進捗状況について

●事務局から議事(1)の説明を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

(竹島部会員)

○「スポーツ医科学の効果的な活用」の項目で、高知県スポーツ科学センター(以下、「SSC」という)が設置され、選手寿命が長くなったり、途中で競技種目の変更が可能になった面もあると思う。P10の資料の課題に「SSCの取組が県内に周知されていない」「競技団体との連携不足」とあるが、現在でも連携不足があるのか。また、これはコロナの影響なのか。それとも時間が足りなかったことが原因か。

(葛目スポーツ振興監)

●日程調整はSSCや県がすべきところであり、そういったところをもっとしっかりとやるべきであると言ったところや、競技団体にご協力いただき医科学担当者をつけていただくところではあるがまだ浸透していないため課題として記載している。周知については、徐々にではあるが競技結果に追随するようになり、SSCの名前も聞こえるようにはなってきたが、SSCが競技力向上の拠点とはなっていないとはまだいえない。これを課題と捉えおり、今後しっかり取り組んでいく。

(竹島部会員)

○全高知チームでもそういったことがあるか。

(葛目スポーツ振興監)

●全高知チームでも活動拠点とSSCが距離的に離れており、専門体力測定の日調整が難しい競技団体や、トレーニング時期と測定時期のマッチングが難しい競技団体がある。そういった点を踏まえSSCのスタッフ体制の強化も記載させていただいているところである。

(2) スポーツ振興の強化ポイントについて

●事務局から議事(2)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

☆ウィズコロナ&アフターコロナの社会におけるリモートによるスポーツ環境の整備

(大坪部会員)

○サテライトの集会所、文化会館等で実施する場合には、まとめ役の指導者等が必要だと思うが、そういった人員の確保はどのように考えているのか。集会所等で、実施する場合は責任者の方がいないと、なかなか人は集まらないように思う。

(三谷スポーツ課長)

●例えば地域スポーツハブを担う総合型地域スポーツクラブが拠点施設でリモートスポーツ教室を設定した場合、サテライトの施設にリモートができる設備を貸し出すこととしているが、サテライトの施設の方にご協力いただいて実施する必要がある。ただし、サテライト施設でも人員が確保されている訳ではないので器具の設定や運用については、県からも説明させていただきながらスムーズな形で運営が出来るようにしていきたい。

(大坪部会員)

○スタートが肝心だと感じる。地域スポーツハブのスタッフの協力があればいいと思うが、いいスタートが切れるようにお願いしたい。

(矢野部会長)

○体育、スポーツは対面で行うのが原則であり、全てをリモートで行うことは難しいと思う。しかし、中山間地域については移動面に課題もあることから効果があると思われる。絶対に対面でなければ伝えられない部分とリモートでもまかなえる部分をすみ分けることが重要となってくると感じる。

(西川部会員)

○リモートの環境整備による強化があまりイメージできていない。リモートでの技術指導ができる競技は限られているのではないかと。武道や陸上などリモートに馴染まない競技があると思われる。各競技団体等にリモートの環境を整備していった結果、何が出来るかは現段階では見えない。

○中山間地域での人を集めたリモートによる指導についても、ストレッチ教室なら可能だと思うが、競技力向上の観点に立つとそういった取り組みが全年代の競技力向上にどこまで繋げていけるかは疑問である。

(下坂部会員)

○剣道では、コロナの影響により6月10日まで対人の練習は発声等による飛沫感染リスクを考慮し禁止となった。6月10日よりマスクとフェイスシールドの着用という条件はあるが、対人での練習が可能となり現在は練習がこなせている。3カ月近くの練習を中断した期間中には、全日本剣道連盟がトップ選手による一人稽古の動画配信を行い、基本的な動きの説明などを行っているが、細かい指導などは直接受けないと理解できない状況。リモートを導入することは良いと思うが、競技力向上の観点からするとリモートで

は難しいと感じる部分もある。リモートで動画配信をしても、最終的には指導者が直接指導をする必要があり、実施方法について今後検討が必要ではないか。

(寛藤部会長)

○もう 30 年近くになるが、毎年 9 月に全日本柔道連盟がメダリスト等に参加してもらい合宿を行っている。今年は、コロナの関係でその合宿をリモートで行う形となり、Wi-Fi 環境の有無も含めて参加に関わる参加の希望調査があったが、高知県は参加しなかった。全国的に見てもリモートなら参加しないという意見が多かったと聞いている。コロナで閉鎖されている環境であれば、リモートのメリットを生かすことができるが、競技力向上という点ではなかなか厳しいと考える。特に柔道は、競技特性上、組み合わせが必要なため、リモートでは競技力向上には繋がらない。しかし、動画等を見ながらリモートで指導をしてもらうなど、工夫をすれば技の研究には繋がる可能性はあり、使い方に工夫の余地があると考ええる。

(葛目スポーツ振興監)

- 寛藤部会員の言われるとおりにリアルに勝る物はなく、併用していくことを想定している。一般的な教室について述べるが、ストレッチも間違ってしまうと高齢者などは危険であるため、直接指導も大事だと考えている。
- また、このコロナ禍での状況を勘案すると、地域のスポーツ指導者の活動機会を確保する観点でも、リモートを活用し少しでも教室を開催して生徒のサポートを行っていただきたいと考えている。また、リモート教室をきっかけにリアルなスポーツを始めることも十分考えられる。
- 全高知チームではトップコーチが選手へ指導を行っているが、重要なポイントはトップコーチから指導方法を学ぶ高知県の指導者である。全高知チームの取り組みを見させていただいている中で、トップコーチの指導を熱心に学ばれている指導者の姿を見ることがあり、そういったことを通して日常の指導につなげていただきたいと考えている。リモート機器の設置までにはまだ時間があるので、活用に向け今後もご指導いただきたい。

(北村氏 池澤部会員の代理)

- 障害者スポーツセンターでもリモート機器の導入に向け準備を進めていただいている。今後取り組みを進める上でも、地域の中でまとめ役が必ず必要だろうということで、現在、県の東部、西部でまとめ役を担う人材を各一人ずつお願いする予定である。障害者スポーツセンターに整備される機器をそういった方に貸し出すことも可能であれば、取り組みが広がる気がしている。
- 競技力向上とは外れるかもしれないが、障害がある方は、移動が困難な方が多い。リモート環境が整備されることでそういった課題に対応でき、スポーツ活動の入り口として非常に可能性があると感じている。

(岡本部会員)

- 春野総合運動公園・県民体育館・武道館・弓道場を管理しているが、スポーツ教室は参加者が激減している。いくらスポーツ教室が再開されたといっても、高齢者の方々に参加していただけない。高齢者の方々も自分の健康管理はしたいが、県民体育館に行くのが怖いとの声も聞く。是非、リモートを活用して、

県民の健康増進にも寄与していきたい。

(矢野部会長)

○高齢者の方は若い世代と比べ、コロナへの不安を募らせている方が多いと思う。リモートでのスポーツサービスを提供するのであれば高齢者に対して Wi-Fi の貸出しも考えるべきではないか。大学でも Wi-Fi 機器を一括で購入し、学生に貸出しを行っている。今後はこのようなこと検討してみてもどうか。

(三谷スポーツ課長)

●身近な地域でしっかりと運動できる環境づくりが一番大切なところである。リモートを活用するまでの準備をしっかりと行い、また、活用しながら課題解決に向け柔軟な対応を行いながら効率よく活用したい。

☆地域における子どものスポーツ環境づくり

(秋森部会員)

○岡豊高校は地域に柔道場を開放している。県立学校は良い施設を持っているので今後、柔道以外にも開放する可能性はあるのではないかと。特に団体競技は高知市内でも部員が集まらずに部活動が成立しない状況がある。将来に向け、競技の拠点づくりは考えていかななくてはならない。

(松下部会員)

○運動部活動の部員数が減少していることについて、中体連の発表の中では、軟式野球部が、小学校へ出向き、スポーツ少年団で活動している小学生をできるだけ中学校の部活動へ入部してもらおう活動を以前から行っていた。この活動によって、部員数自体の増加はないが、減少を抑えている。こういったことを中体連で共有しながら、競技から離れる子どもを少なくしていきたい。

○地域部活動モデル事業は、これまでも中学校が中心になって組織づくりをおこなっていたが、どちらかというと、地域の力ではあるが、個人的なところに頼っていたところがあった。ここに対し、中体連が競技力の強化の部分で関わることができればと思っている。これまでも中学校に来ていただいた子ども達を強化してきたが、これに加えて小学校から中学校、中学校から高校へつなぐ見通し策の様な形の強化を中体連ができるのであれば、スポーツ振興に貢献できるのではないかと考えている。

(永田部会員)

○小学生時代には、親の理解や様々なスポーツを経験できる環境が充実しているが、その後、良き指導者に学ぶ環境や希望のスポーツを実施できる場所などに結びつかず広がりを見せることが難しい。継続的にスポーツを行うためには、市町村の地区大会の実施など小さなことから始めることも一つの手ではないかと考える。現状を良い側面だけでなく、課題に注目し、一つずつ整理していくことで、自ずと答えが出てくるのではないかと。

(西川部会員)

○年少から年中の子どもは単純な運動や遊びが好きで楽しんでいる。年齢が上がると運動やスポーツが好きな子どもの割合が減っている現状は、保・幼から小学校、中学校への繋ぎが上手くいっていないこと

が考えられる。

- ラグビーはタグラグビーを開発し、保護者等への啓発も行っている。スポーツの好きな子を増やすには、このような取り組みを行っていくことが重要である。
- また、二昔前のような指導をしていると子供が競技から去っていく状況がある。効果的な指導方法の学びを良き指導者につなげる部分も重要である。
- 海外の状況について、幼少の頃ドイツに住んでいたことから、ドイツでは地域のスポーツクラブなどで保護者も巻き込み、子どもが遊びからスポーツに繋がるのが自然にできており、地域ぐるみでスポーツに触れる環境が整っている。高知県でもどこかそういった場所ができればよい。既存の施設でも、全年代が集まりスポーツに触れる取り組みがあると繋がっていくのではないかと。

(矢野部会長)

- 日本スポーツ協会の派遣でドイツに視察に行った際に、サッカーチケットを持っていれば、会場までの公共の乗り物は無料で利用できるようになっており、非常にスポーツ文化が根付いていると感じた。一方で先日、土佐清水市で指導者講習会を行ったが、良いスポーツ施設が山の上にあるが高齢者や子どもは移動方法が課題となっている。地元の方とは、無料バス等の運用やスポーツ施設に停留所があれば、利用しやすいとの話があった。

(北村氏 池澤部会員の代理)

- 障害のある方の課題は、通学中は体育の授業を含めて運動やスポーツの活動ができているが、就労すると活動しなくなる。様々なマイナス要因に関係すると思うが、特に障害のある方は、生きていくこと、生活していくことの基盤がまず第一である。
- また、学校卒業後は、学校から発信されていたスポーツ情報が無く、活動するための情報が足りていないと思う。もっと根本的なところになるが、生活の基盤がしっかりしていない中でスポーツをすることは、非常に厳しいと感じている。
- さらに、スポーツを続けようとするとう費用がかかる。これらの課題は、高知県全体の課題になるが、大きな課題という気がしている。
- 特別支援学校と連携をいかに取って行くかということが、今後の大きな課題だと思う。県の障害者スポーツ推進プロジェクトを通して、いろいろな所と連携が取れて来ている。現在、特別支援学校の全ての3年生の卒業時には、「今後、スポーツの情報が欲しいですか。」というアンケートを取っている。希望される方には、登録をしていただき、情報を提供している。まずは、卒業後も障害のある方とつながることから進めている。

(葛目スポーツ振興監)

- 令和3年度の取り組みとして、スポーツの空白を埋めるための環境づくりと運動部活動について気になっている。例えば、スポーツ少年団で剣道競技を実施していた子どもが中学進学後に部活動はないため、スポーツ少年団で活動を続けている事例や、合同部活動については、中体連・高体連の規約により、合同チームは全国大会には出場できない状況があるが、高校野球を見ると合同チームが全国大会につながる地域大会に出場するケースが多くなってきており、そういった環境づくりをどのように行っていくのか。

また、地域部活動モデル事業についてや、高等学校の生徒確保に向けた部活動の活性化に向けた取り組みや、指導者の在り方など、知事も部活動がこれまでのような形では実施できなくなってきており、市町村と連携した先進的な取組を試行錯誤しながらやっていくという考えであり、そういった視点で皆さまからのもう少しご意見をいただきたい。

(下坂部会員)

- 前回も発言したが、現在、中学生3名をスポーツ少年団で指導している。スポーツ少年団だけの指導では技術の向上に限界があるため、在籍している中学校へお願いし、週末は高等学校の練習へ加わることをお願いしている。
- 今後、高知県剣道連盟として、剣道の競技人口を減少させないために、スポーツ少年団や道場の指導者を交えて、小学校から高等学校まで競技を継続してもらえる方法について考えてもらう予定である。現状では、教員が部活動で指導できる時間も少なくなっているため、外部指導者の配置も考えていきたい。ただし、外部指導者の資質の問題もあると認識している。

(秋森部会員)

- 合同部活動については、数年前から全国高体連の会議でもどのような条件設定をすれば可能なのか検討している。まだ、方向性は出ていないが、間違いなく合同部活動は認められると考えている。合同部活動でも全国大会に参加できるといった視点はとても重要である。
- 大会は学校を中心に組まれているので、学校単独で出場することが基本になっている。しかし、少子化も踏まえ、今後は学校単独で大会に出場することが維持できるのかについては不安に感じている。地域のクラブチームと運動部活動でも同じ年代なら一緒に試合ができるといった環境になればよい。サッカーの高校年代では、クラブチームと部活動が対戦できる仕組みがある。他競技でも同じ仕組みが考えられるのではないか。
- 部活動の考え方を変えていかなければならない。学校により特色のある部活動を残し、生徒に学校を選ばせることも必要ではないか。

(寛藤部会員)

- 下坂部会員、秋森部会員から話もあったが、県には外部指導者の動員をもっと考えてほしい。特に郡部の中学校では外部指導者が必要である。約8年ほど前に神奈川県で外部部指導者の事件があったので、外部指導者の資質についても考慮していただく必要がある。
- また、高知県の高等学校では外部指導者が浸透していないように感じる。外部指導者が増えることは、スポーツの活性化・学校部活動の活性化に繋がるため、県教委の方からも外部指導者の活用を勧めていただきたい。

(前田保健体育課長)

- 外部指導者(運動部活動指導員)平成30年には中・高合わせて23名、令和元年は50名、令和2年度は71名と増加している。高等学校では令和2年度34名と半数を充てている。種目はバスケットボール、サッカー、野球、バレー、バドミントン、陸上、柔道などである。約6割の方が時間講師との兼務である。こ

の運動部活動指導員は、単独でも選手を引率・指導ができる方であり。市町村の状況は把握できていない。

(矢野部会長)

○スポーツ庁から土日の部活動は、地域で行うことが具体的に示された。令和5年度より段階的に実施する方向性が出されたが、高知県としても、どのような構想で行っていくのかを考える必要がある。その点についてどうか。

(大坪部会員)

○レスリングやバスケットボールの栄養指導で高知東高校に行く機会があるが、幅広い年代の選手が集まって練習を行っている。小、中、高の施設は地域のスポーツ施設として開放されているのか。私も中学校の施設を借りてスポーツをしているが、そこに様々な世代の選手が分け隔てなくスポーツをする環境ができれば良いのではないかと思う。

(前田保健体育課長)

- 生徒は部活動を行う以外に、学校の管理下以外の活動として社会体育で行う場合がある。国からは、土日の活動を学校の管理下から離して地域に移行していくことが新たに示されている。土日も指導したいと考えている教員は兼職兼業の手続きを行い指導していくことが予定されている。
- 高校は生徒確保のために特色ある取り組みに部活動を掲げていることもあるので、高校の場合は引き続きそのままという考え方もある。県教委としても今後、校長会等で議論しながら方向性を示していこうと考えている。
- 来年度から、モデル校、モデル地域で取り組みを進める予定なので、総合型スポーツクラブに関わって頂きながら、スポーツ課、スポーツ協会と検討しながら県としても先進的に進めていこうと考えている。

(竹島部会員)

○外部指導者について、時間講師が担当しているという面ではなく、寛藤部会員の意図は、時間があるから時間講師がやるのではなく、専門家や競技に精通した人という意図で発言されたと思う。そのような方の発掘や配置、春の人事異動のタイミングなど、競技力向上のための会なので、そういった面からも担当課には考えてもらいたい。

(前田保健体育課長)

●部活動指導員の配置については、各学校の方から申請をいただいている。指導者は各学校で探して頂くが、どうしても見つからない場合はスポーツ課、スポーツ協会、競技団体等に問合せをして探していく。時間講師についても大学でやっていた方などが、しっかりとした指導ができるように取り組んで頂いている。

(竹島部会員)

○5年後、10年後のことを考えて、高校も拠点校を行っていると思うが、指導員とのマッチングを進めてもら

いたい。

☆本県の特徴を生かしたスポーツツーリズムの活性化

(永田部会員)

○施設利用に係る管理(申請時間内における他の団体利用等)について、弾力的な判断により使用しやすい環境にしてもらいたい。県外の実業団チームが合宿した際にも一部指摘があり、継続して来高してもらえなくなった実情がある。

(西川部会員)

○特色のある環境を生かしたスポーツツーリズムについて、チームビルディングとしてリフレッシュや慰労を兼ねた合宿がある。高知でいうと川遊びや駐屯地でのアーミートレーニング、海も使えるのでそういった資源をより活用すべきである。高知のなかでも涼しい位置にグラウンドや施設を用意し、それをPRするのも一つの手段である。

(葛目スポーツ振興監)

●高知県はマラソン、サイクリングなど多様なスポーツを実施しており、それらを可視化したプロモーション活動を行っていききたい。標高を生かしてという話もあったが、7月中旬に本山町では、マラソン大会を開催している。スポーツ施設も土佐町にカヌーを中心にした拠点ができおり、須崎市もマリンスポーツの拠点ができている。各市町村が県の支援制度を活用して、競技力向上も併せた形で取り組んでいる。また、トップチームにSSC やプール・芝など活用していただくといった総合的な取り組みも考えている。利用できる場所が限られており調整が必要になるので、合宿の情報などをいただきながら、関西との連携や、競技力向上への取り組みも併せてしっかりと取り組んでいきたい。

(矢野部会長)

○今年度、剣道競技では西日本の大学生のトップチーム 200 名が高知県で 5 日間合宿を行う計画があった。合宿が実施されれば、県内に 1,000 泊の需要が生まれるところだった。そうすれば、高校生の強化等に繋がると感じていたが、コロナの影響で中止となった。今後も県内にトップチームを招くような取組が必要であると感じている。

(秋森部会員)

○スポーツ合宿では、本県で一番施設が充実しているのは春野総合運動公園だと思う。今後もどの競技にとっても一番充実した施設整備を行って欲しい。

(葛目スポーツ振興監)

●アマチュアスポーツ合宿の現状については、資料にも小さく記載しているが高知県観光コンベンション協会の助成金を活用した団体などを記載している。もちろん春野総合運動公園でも大学生の合宿を行っているが、その中でも積極的に活用されているところは黒潮町の西南大規模公園である。そういった現状であるので、県も合宿誘致の開拓にあたっては助成金を PR しながら全県的に調整させていただきた

い。

3 閉会

(文化生活スポーツ部 山脇副部長)

○大変多くのご意見をいただき感謝申し上げます。リモートを活用したスポーツに関しては、県でも様々な議論を重ねてきた。発端はコロナの影響でスポーツ教室等に集まりにくい状況であったことなどからスタートしている。今回、資料にアフターコロナと記載しているのは、コロナが終息したときに、これから進めようとしている施策がコロナの前より進化しているかどうかという視点も含めた施策として記載している。先ほど言われたように柔道のような相手の圧を感じなくてはいけないスポーツではリモートの活用は難しいかもしれないが、競技によっては、例えば「強化合宿の前にここまではやってほしい」といった宿題をリモートで出したり、合宿の合間に課題をチェックしながら動画で確認するといった方法もあるかもしれない。競技力向上に向けては、まだノウハウがないので、各競技団体の方のお力添えもいただき、試行錯誤を繰り返しながら取り組みたいと思っている。本日はいろんなご意見をいただいたが、時間の都合で十分な発言機会がなかったかもしれない。この部会が終わった後など、いつでも結構なのでご意見やアイデアを頂戴できればと思う。